

## ◆ 美術館・博物館を知る

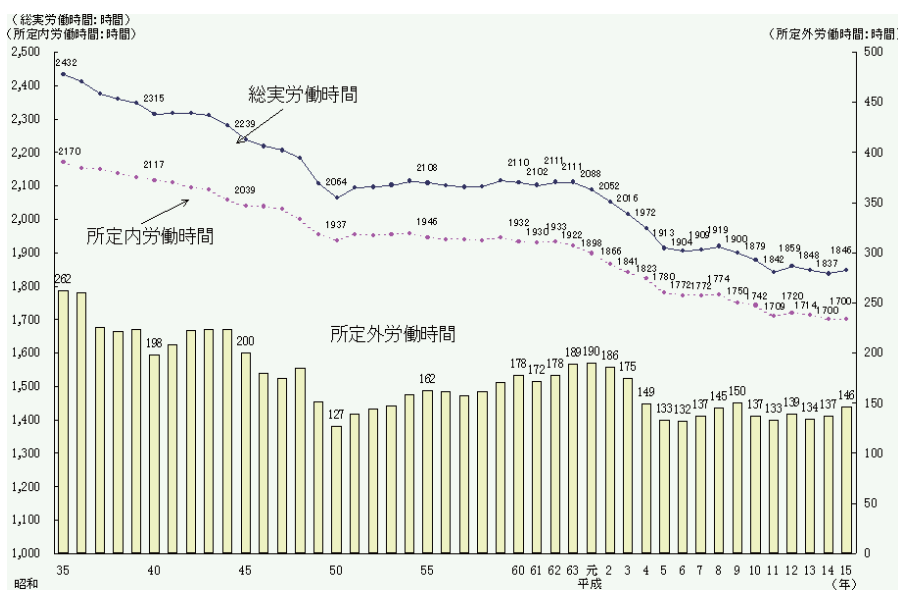
井戸田 精一

この夏休みに家族で最新技術の免震構造が採用された三重県立博物館を訪れた。そして、企画展で「おもちゃ大好き」を見た。江戸時代から近代までの日本全国のおもちゃを見ると、おもちゃの素材や加工方法などから、各時代の産業を想像し、その遊び方で子供たちの暮らした時代の生活環境を知ることができる。美術館・博物館の展示物は、我々の暮らす環境を改めて教えられることがある。また、歴史的な美術館・博物館でも近代的な美術館・博物館でもそのデザインは、その時代を映した建物といえる。特に三重県立博物館は、県内の自然と歴史・文化を伝える総合博物館である。

ところで、文化事業の大切さとは何だろうか？アメリカでは美術館・博物館にも市場原理を導入して運営がされていると伺う。しかしながら、現状の日本の美術館・博物館が経営的に独立して、運営するには課題は多いと思う。最近の過去 50 年間の年間総労働時間は 1970 年が 2,250 時間であったのに対して、2001 年には 1,850 時間へと 400 時間減っている（下表）。また、余暇市場は 1988 年の 66 兆円から 2005 年には 80 兆円へと増え、余暇市場のなかでは娯楽ゲーム市場が増えている。すなわち、統計での労働時間は減る一方、余暇を利用する市場は拡大しているのである。



【写真】 上：三重県立博物館、左下：企画展の展示内容、右下：免震構造であることを示す表示板



表：労働時間の推移

美術館・博物館の展示物や催しは、見学に訪れる利用者の嗜好に委ねられているといえる。私たちは労働時間を短縮してできた余暇時間をレジャーやゲームのように、身近に美術館・博物館を利用できる機会が増えれば、さらに余暇が有意義にならないだろうか。美術館・博物館の利用方法が多様化すれば、市場原理に乗って発展してゆくのではないだろうか。今後も働き方や暮らし方の環境が変化の中で、美術館・博物館を利用できる活動が有意義になれば、余暇時間を満たす環境がさらに充実すると思う。

先日、「今の時代の民藝とは」というトークイベントに参加しました。企画者は京都の大学院に在籍する24歳の女性。彼女に限らず今、若い人々の間で民藝に関心が向けられています。このイベントの参加者も20代、30代の女性が多かったように思います。

民藝とは今から100年ほど前に、思想家の柳宗悦らによって作られた言葉です。柳はそれまで芸術的価値など無いと思われていた無名の職人たちによる焼き物、染織、漆器、木竹工など日常の生活道具にある美しさを評価し、それらを民藝（民衆的工芸品）として広く紹介しました。民藝で重視されるのは「用の美」です。柳がこの言葉を生んだ当時、使いやすさを無視した鑑賞目的の美術品が多く作られ、それらにのみ芸術的価値があると思われていました。柳は日本各地を訪ね、事例を提示しつつ、民藝を一般の人々まで受け入れられる運動として展開していきました。その後、民芸品はダサイというイメージを持たれる時代もありましたが、2000年頃から今の再評価の時代が始まっています。

その評価が転じたのは、民藝が変わったからではなく、人々の価値観が変わったからかもしれません。1981年～2003年に生まれた人々はミレニアル世代と呼ばれ（私も定義の上ではぎりぎりミレニアル世代です）、他の世代よりもモノを買うことが少ない。高級ブランド品よりも、本質的によいもの、コストパフォーマンスのよいものを選ぶ。会社への帰属意識が低く、キャリア形成にも消極的で個人の生活を充実させたいと考えている。といった特徴をもつと言われています。そのような価値観に民藝は響くのだと思われまます。実際、私にも響いており、河井寛次郎記念館（京都市東山区）を何度も訪ねたり、日本民藝館（東京都文京区）を訪ねたり、関連の著作を読んだり、器を探したりと何とか近づこうとしています。自身の暮らしに民藝を根付かせるのは難しいです。

「用の美」とともに民藝は「暮らし・地域・作り手を大切に作る」という要素も含んでいます。これらは経済優先の社会ではないがしろにされてきた部分です。とって、これらを優先させ食べてゆくのは大変なことです。しかし、東北の震災などを経て、それでよいのか疑問を感じている人が増えているのも事実だと思います。ミレニアル世代が経営者などになっていく十数年後には、その価値観が社会の新しい主流になっていくと言われています。「彼ら」と他人行儀に言ってしまいましたが、私も民藝再興に向けて何らかの貢献をしたいと考えています。



トークイベント「今の時代の民藝とは」（2018年8月開催）の様子  
 【登壇者】鞍田崇（哲学者）×服部滋樹（クリエイティブディレクター）×松井利夫（アーティスト）  
 【開催場所】スタンダードブックストア心齋橋



河井寛次郎記念館の茶室



日本民藝館



日本民藝協会発刊の雑誌「民藝」

◆ 編集後記

◆ 編集メンバー

建物も生活道具もつくって終わりではありません。長く使い続けられるものづくりは、私たちの使命であると思います。（何左）

井戸田 精一  
 米田 巧  
 坂本 雅之  
 辻 祐司

SDIイドタセイイチアトリエ  
 TAKUMI建築設計室  
 建築設計事務所アニコ  
 辻 建築設計室

何左 昌範  
 橋爪 恒平  
 松村 泰徳  
 森本 晃尚

さざりな計画工房  
 atelier nest-アトリエネスト-  
 松村泰徳建築設計事務所  
 SDIイドタセイイチアトリエ

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局/  
 SDIイドタセイイチアトリエ  
 東大阪市吉田本町3丁目5-12-1004

TEL : 072-951-4668

URL : <https://www.facebook.com/groups/25614507753600/>

Copy right 2010-2016 Architect Caravan All rights reserved

奈良事務局/  
 松村泰徳建築設計事務所  
 奈良県葛城市北花内261-5  
 松村ビル2F-WEST

TEL : 0745-69-5938

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。

新築・リフォームに限らず住まい全般のご相談などございましたら、遠慮なく左記事務局までご連絡いただけますよう、宜しくお願い致します。